黒川の豆知識

黒川ってどこの部分をいうの?

黒川は堀川の一部です。はっきりとした決まりはありませんが、一般的に北区の夫婦橋から西区の朝日橋までを「黒川」と呼びます。

なんで黒川っていうの?

明治9~10年(1876~1877)犬山から名古屋まで舟で荷物を運んだり、農業に使うための水をとる川が作られました。川をつくる担当の技師、黒川治愿さんから「黒川」と呼ばれるようになりました。

黒川ってどこから流れてくるの?

水分橋のあたりで、庄内川の水を南へ流しています。それが黒川(堀川)です。水を分けるところにかかる橋なので、水を分ける橋=水分橋と呼ばれています。

黒川樋門

そのまま流れると矢田川にぶつかっちゃうよ!?

庄内川から分かれた黒川(堀川)は、矢田川の下を通り、黒川樋門から出てきます。川が地下にもぐって立体交差するのを伏越といいます。この伏越部分にかかる橋は、黒川(堀川)が1階、矢田川が2階、その上にかかる橋が3階なので、三階橋と呼ばれるようになりました。

三階橋

黒川の伝統

黒川友禅流し

黒川友禅流しは、昔行われていた名古屋型友禅の糊落としを再現するイベントで、毎年4月上旬に開催されています。黒川が汚れたため、友禅流しは昭和40年半ばになくなりましたが、平成11年に復活しました。

型友禅とは、使う色ごとに友禅模様の型紙をかえて、絵柄を付けていく染めです。名古屋型友禅は、京や加賀の友禅と比べて色数を少なくしているので、渋さが特徴です。

第23回名古屋市都市景観賞受賞!

【編集企画】黒川ドリーム会(事務局 名古屋市北区役所 地域力推進室)
名古屋市北区清水四丁目17番1号 TEL:(052)917-6436 FAX:(052)914-5752
【協力】ロマン黒川の会、愛魚家 宇地原永吉 【参考文献】北区歴史と文化探索トリップ
2019年8月発行

黒川の生き物図鑑

クリンちゃん

黒川ドリーム会・北区役所地域力推進室